

# あわゆず ふれず

第23号 2011年5月15日発行

伝えよう日本語を  
広げよう徳島から



J T M と く し ま  
日本語ネットワーク

## 「外国にルーツを持つ子どもたち」の支援の仕組みづくりに向けて

JTMとくしまでは、文化庁の委託を受け、平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業として、「外国にルーツを持つ子どもたちの日本語指導者養成セミナー」と「親子にほんご寺子屋」のふたつの取り組みを実施することになりました。

採択の知らせは、今年度総会前日の4月22日に届きました。待ちに待った吉報に、子どもたちの未来に一筋の光がさしたようでした。翌日の総会では事業が採択されたことを喜びあい、子どもたちのために、そして東日本大震災の被害を受けた方々へも私たちにできることのひとつとして、この事業に皆で気持ちを合わせて全力で取り組んでいこうと話しました。

今回の申請は、私たちにとって大きな挑戦でした。文化庁のサイトで採択された団体を見てみると、自治体や国際交流協会、大学、NPO法人など組織力のある団体が大多数です。地方の任意団体が申請しても採択される可能性は高くないと思われました。しかし今回は、県教育委員会学校政策課と県国際交流戦略課から同時期に申請を勧めていただいたことが契機となり、子どもたちの未来への責任を貫こうと決意を新たにすることができました。

また、1月22日に開催したセミナー「外国にルーツを持つ子どもたちの未来への責任」に先立ち実施した学校へのアンケート調査で、学校長や学級担任をはじめ、さまざまな立場の先生方が、子どもたちの現状や指導に関する課題を民間の支援団体に伝えてくださったこと、そしてセミナー終了後、子どもたちを受け入れる予定の小中学校や自治体の教育委員会から支援の問い合わせや依頼が相次いだことも大きく背中を押してくれました。

私たちはこれまで目の前にいる子どもたちの支援に取り組む一方で、支援の仕組みづくりの必要性も痛感してきました。来日直後からの日本語指導者の学校への派遣や、日本語教育の専門家による体系的な研修の実施、保護者へのサポート体制の充実等、どのようにその必要性を教育委員会や学校に提言していけばいいのか模索するなかで、まずは手弁で取り組み、成果と課題を発信していくことを積み重ねてきました。

2009年の春休みに「にほんご寺子屋」を開設したころから、学校からの問合せや相談がたびたび寄せられるようになってきました。来日した年齢や発達段階が一人ひとり違う子どもたちの支援の相談にともに悩み、学校と地域、それぞれの立場で取り組むうちに2年が経ち、ようやく学校や教育委員会とのつながりが芽生え、子どもたちの支援の仕組みづくりに向けてその芽が伸び始めたと感じています。

申請した事業は、これまでの取り組みの中から生まれた課題を改善することと、支援の仕組みづくりに向けての提言につなげることを目的に計画しました。

「外国にルーツを持つ子どもたちの日本語指導者養成セミナー」では、これまで単発で2～3時間のセミナーを年1回程度行っていたものを、24時間かけて系統的に実施し、子どもたちの日本語学習や教科学習に必要な日本語指導ができる人材を養成し、来日直後からの支援体制の充実に活かすことをねらいとしています。「親子にほんご寺子屋」は、現在月1回行っている子どもたちの「にほんご寺子屋」を週1回に拡大するとともに、月1回の保護者のための日本語教室を併設し、学校教員や保護者同士とのよりよいコミュニケーションに必要な日本語やマナーの習得と、学校からの通知文を理解する日本語力を習得することをめざします。これは先述の学校への事前調査において、保護者とのコミュニケーションに難しさを感じているという回答が予想以上に多かったことから企画しました。保護者への支援制度もまた子どもたちの支援制度と一体的に進めるべきであることを提言するきっかけとなれればと願います。

目の前の、外国にルーツを持つひとりの子どものために学校や地域の人たちが力を尽くすとともに、支援制度の充実もはかっていく、その両方ができれば、その子はもちろん、学校全体の子どもたち、ひいてはすべての子どもたちの夢や目標がかなう、未来に希望の持てる社会へと向かっていくのではないのでしょうか。

(JTMとくしま日本語ネットワーク 兼松 文子)

2010 年度第 1 回 J T M とくしま日本語ネットワーク定例会

# 外国にルーツを持つ子どもたちの未来への責任

～ 他県公立学校の取り組みから学ぶ～

日 時 ● 2011 年 1 月 22 日 (土) 13 : 30 ~ 16 : 30 (13 : 00 受付)

場 所 ● 徳島県国際交流プラザ (TOPIA) 大会議室

(徳島市寺島本町西 1 丁目 61 徳島クレメントプラザ 6 階)

内 容 ● [1] 報告 県内公立学校での取り組み

徳永満枝先生 (徳島市川内北小学校教諭)

佐古晴輝先生 (美馬市立三島中学校教諭)

[2] 講演 日本語指導と教科指導

「何をどこまで、どうやって?」

小川 郁子先生 (東京都北区立稲付中学校教諭)

参 加 ● 学校関係者、自治体関係者、日本語教育関係者など 56 名

(四国労働金庫社会貢献活動助成事業)

外国にルーツを持つ子どもたちが在籍する学校では、学校独自で手探りをしながら支援をしているという声を聞きます。一方で地域の支援者も、学校での子どもたちの様子が見えにくく、模索しながら日本語学習や教科学習の支援に取り組んでいるのが現状です。

今回の定例会では、まず、県内の公立学校で外国にルーツを持つ子どもの支援に携わってこられた先生方からその取り組みの事例をお聞きし、そして東京都の公立学校日本語学級で長年にわたり指導を実践している先生から、学校生活適応支援や日本語指導、教科指導、進学指導等に関して「何をどこまで、どうやって」取り組みばいいのかを学びました。

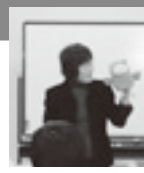
## 1 報告 | 県内公立学校での取り組み

徳島市佐古小学校……………徳永満枝先生 (現 徳島市川内北小学校教諭)

支 援 対 象 : 平成 12 年度 ~ 17 年度。(14 年度まで普通学級。15 年度から外国人対応教室)。イラン、フィリピン、中国、インドネシア、韓国など複数の国の児童。

受け入れ時 : 最も困ったことは受け入れ児童の母国語が理解できなかったため、まず児童の母国語の辞書を手渡し、絵や、母語訳を頼りに支援を開始した。

取り組み方 : 子どもたちが日本語を楽しく学べるよう、いろいろな教材を手作りしたり、授業にゲーム性を持たせたりして常に工夫を凝らした。宗教上の問題、体調管理などでは、言語が障害となり戸惑うこともあったが、同じ国の子どもで日本語が理解できる子の助けを借り、対応した。国に帰る子どもについては、日本で学習内容の証明として、母国の様式に合わせた通信簿のようなものも作成した。



美馬市立三島中学校……………佐古晴輝先生

支 援 対 象 : 平成 21 年 3 月 ~ 平成 22 年 3 月。ブラジルから 2 年生の終わりに転入した 1 名。母語はポルトガル語。小学校低学年のとき日本在住の経験があり再来日したが、本人、母親とも日本語はほとんどわからない。

受け入れ時 : 制服などは地域の卒業生から譲り受けた。学校生活についての説明は、ポルトガル語がわかる地域在住の人に通訳してもらった。受け入れ直後の春休み中も、教員が交代で学校生活に必要な日本語の指導にあたった。

取り組み方 : 本人に公立高校に進学したいとの希望があったため、高校入試を目標に取り組んだ。国語、理科、社会は日本語学習を中心とした別室で個別指導をし、数学、英語は教室で教科担当教員とは別に 1 名の教員がついた。教員間で学習記録簿による申し送りをしたり、月 1 回の話し合いの場を持ったりして、軌道修正をしながら進めた。地域の人の家族ぐるみでの協力もあった。高校入試の際は「ルビ打ち、辞書の持ち込み」の特別措置をとってもらった。本人は無事志望校に入学でき、現在充実した高校生活を送っている。



## 2 講演 | 日本語指導と教科指導「何をどこまで、どうやって?」

小川 郁子先生 (東京都北区立稲付中学校教諭)

子どもが自分の国を離れて育つということ  
子どもは自分の意思ではなく、親に連れられて来ている。移住することにより学習が中断されたり、子どもが適応するのに対して、親が自国のやり方で育てようとする事による親子間のずれが生じ

たりと、さまざまな問題が出てくる。支援者は、自分がこの子だったら、自分の子どもがこの子だったら…と考えてみる事が大事である。



## 言語の役割とその発達

- 生活言語は1年もあれば話せるようになるが、学習言語は5年～7年かかると言われている。
- 「バイリンガル」の逆で、「ダブルリミテッド」と言われるものがあり、母語も第二言語も年齢相応のレベルに達していないことを指す。これにより、学力不振や認知発達の遅れをきたすことがあり、手立てを講じる必要がある。
- 母語は考えることの土台になるとともに、親との絆の証やアイデンティティにかかわる重要なものなので、家庭では母語でのコミュニケーションを大切にしてもらいたい。

## 日本の学校に「外国にルーツをもつ子ども」を迎える

- 日本の学校に入ること
  - 何年生に入れるか…学齢に縛られず状況で判断する。
  - 存在を尊重して…名前は大事なもの。通訳を介してでも正しい名前前で呼べるようにする。
  - 特別扱い / 公平 / 公正…その子が皆と同じように学べる「特別扱い」をする。
- 最初期のオリエンテーション
  - 日本の学校生活をよく知っている母語支援者を確保し、説明をするとともに子どもの情報をしっかり得る。
- 学校の先生向け、受け入れアドバイス
  - 学校全体で支援の仕組みを作る。
  - いろいろなホームページやダウンロード資料、補助教材を活用する。
  - 「子どもメール」(中国帰国者定着促進センターHP、全国の支援者と情報交換ができる)
- 保護者とつなぐ
  - 文化の違いにより、教員に誤解が生じることがある。保護者の身近に通訳してくれる人を置いておくとうい。
- 学級生活＝本当の国際理解の体験
  - トラブルはたくさん起こるが、恐れず、一緒に乗り越えながら、この子がいるからいい経験ができた前向きにとらえることが大事。

## 子どもに必要な支援の全体像～全体の設計図～

いろいろな課題を、学校と地域・支援団体との協働で取り組むことが大事。

## 中学校の学習支援モデルプラン

- 1年目：日本語の生活言語から始める。
  - 2年目：教科の割合を増やしていく。
  - 3年目：3年間の総復習をしながら日本語も補充する。
- 取り出し授業はあまり長く続けずせいぜい2年間で、その後放課後や長期休暇の課外時間に補習を行うとうい。



### 小川郁子先生 プロフィール

1989年より小中学校の日本語指導講師。2000年より東京都立中学校教員。4年間社会科・学級担任として勤務した後、2004年から江戸川区立葛西中学校日本語学級、2010年から北区立稲付中学校日本語学級の教員。文科省・(独)教員研修センター「外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修」指導助言者、東京学芸大学国際教育センター「外国人児童生徒教育研修」講師、文化庁日本語教育委託事業「日本語指導者養成講座」講師、等多数

### ※ 稲付中学校日本語学級

東京都で制度化され、北区に一つだけ設置されている通級式学級。区内各中学校から40～50人の外国にルーツを持つ中学生が週に1～3回学習に通っている。

## 日本語指導

### 目的：

年齢相応に育っていくのに必要な日本語力の習得。

### 方法：

- サバイバル会話…テキストがあるとわかりやすい。『日本語学級』1 凡人社 静岡県教育委員会学校教育課 (HP左側)「ともだちになろう」
- 文字語彙指導は学校で使う語彙で行う。座席表や時間割の活用。カタカナは数学・社会と結び付けて。
- 学校生活に密着した日本語表現 『日本語学級』2 凡人社
- 学んだことが教室で使える 『こどものにほんご』1・2 スリーエー・ネットワーク
- 漢字の壁～教科学習の生命線～ 『漢字が楽しくなる本』ワークブック1～6
- 読み書きの学習活動を取り入れる レベル別日本語多読ライブラリー『にほんごよむよむ文庫』シリーズ1～3、レベル0～4アスク出版

## 教科指導

第一段階：母語の教材を探すなどして、母語でできることは母語で学習する

第二段階：かんたんな日本語のできることからやっていく。

(例) 数学→英語→理科→地理→歴史

教科書は卒業生から譲ってもらう。資料集は特に有効。

## もう一度見直してみよう～本人のせい？～

子どもに何か問題が生じたとき、本人のやる気の問題だけではなく、必ず何かの背景があるので、そこに注意して支援を続けてもらいたい。

(辻 暁子)



## 参加者感想 (アンケートより)

### < 県内公立学校での取り組みについて >

- 具体的な事例、取り組みを知ることができてよかった。
- とてもエネルギーに子どもたちに向き合い、また一生懸命試行錯誤を繰り返し、努力されていたことに感心。

### < 講演について >

- 何より小川先生の、子どもに向き合う姿勢に感動。
- 具体的にいろいろな例を挙げながら、本質的なことから、ハウツウまで詳しく分かりやすいお話で勉強になった。

- 多くの経験に基づき実際に役立つ本、教材、リライトなど教えていただきとても参考になった。
- 母語の大切さに改めて考えさせられた。

### < 今後の支援について >

- 外国語を母語とする子どもたちの存在自体をもっと知ってもらおう、広めることから始めないといけないと思う。
- 今日の会でのことを早速出来ることから実行していきたい。

第2回  
定例会

# お国自慢とポットラックパーティー

日時 3月13日 13:00~16:00 場所 ヒューマンわーくびあ徳島

協賛(社)徳島県労働者福祉協議会



三 寒四温とはいえ寒い日が続いていましたが、この13日は天気もよく比較的暖かく大勢の人が集まってくれました。会員23名、会員外42名で国も中国をはじめ8カ国の人が参加して、各自が持ち寄ったお国自慢の美味しい料理をいただきながら、歌や踊りを楽しみました。参加者全員、前に出て自己紹介もしました。「わたしと日本語」と題した3人(ジャー・ミンユさん、任恵絹さん、フロスト・ロバート君)のスピーチも素晴らしいものでした。歌や踊りも皆それぞれに聞きごたえ、見ごたえがありました。

いろいろな国の人たちといろいろな話を楽しみ、お抹茶とおいしいお菓子もいただいたりして、最後に会員の秋田さんの三味線に合わせて皆で輪になって阿波踊りをし、楽しい交流の輪を閉じました。(山溝 十糸子)

## 会場でのインタビュー

### ✿ U.M (ネパール)

去年5月に徳島に来ました。今、多家良町の椎茸の会社で菌床椎茸の栽培の仕事をしています。初めは阿波弁が全然分からなかったけれど、今は大体分かります。時々「あかん」とか「いける」とか使っています。

日本語はネパールで、真鍋先生(会員)に習いました。今日、ネパールの踊りをしましたが、踊るのは大好きで、ネパールでも何かのお祭りがあると踊っていました。

### ✿ K.A (ウガンダ)

徳島大学で電気の勉強をしています。徳島に来る前に大阪で3年過ごし、そこで日本語の勉強をしました。風邪はひかないけれど、冷え性で足が冷たいです。

ウガンダの公用語は英語です。その他、いろいろな土地の言葉があります。

### ✿ F.R (アメリカ)

大学進学のため、あと2週間(3月13日現在)徳島を去ります。とても残

念です。徳島は自然が素晴らしいと思います。将来は世界の国々を見てまわり、いろいろなことを経験してみたいです。

### ✿ Z.J (中国)

瀋陽出身です。徳島に来た時、トピアで半年日本語を勉強しました。瀋陽と違い、日本は天国みたいです。日本人は「こんにちは」とか「すみません」とか、よくあいさつをするので感動します。昔の中国みたいです。

### ✿ R.Y (内モンゴル)

去年は主人が歌を歌いましたが、今年は私がアコーディオンの演奏をしました。アコーディオンは親に勧められて、小学生の時から10年間勉強しました。日本に来て、演奏する機会がありませんでしたが、今日は10年ぶりに弾くことができて良かったです。内モンゴルは気候が厳しくて、ほとんど冬と夏です。冬は零下40℃にもなります。夏は1週間くらい37~38℃の日が続きます。

# わたしと日本語

## 日本語という武器を持って挑戦

ジャー・ミンユ

私は今、日本に滞在して三年半という長い時間が経ちました。(今思い返せばとてもとても長い時間に思えます。)

最初のころはなかなか日本語が話せなくて困っていました。学んでいくにつれて「日本語はやっぱり難しいなあ」と思いました。例えば漢字、最初は楽勝だと思っていましたが、いざ学んでみると頭は「？」で、いっぱいでした。中国の字と同じ形をしている漢字の読み方が違ったり、読み方が合っても字が違っていたりして大苦戦しました。けどそれを克服したときは大きな喜びを覚えました。

そして何と言っても、やっぱり一番苦労したのは片仮名と平仮名でした。平仮名の場合はまだ簡単に覚えられましたが、片仮名となると全く読めなくなります。正直「なんでこんなもんがあるんだろう、べつに平仮名だけでいいじゃん」て、ずっと文句を言っていました。けど文句を言いながらも、「これを学ばなければ、日本で生き残れない」と必死になって片仮名と戦いました。結果はみごとに私の勝利でしたけど…。

あのころ、私と日本語の関係は敵対関係にありましたが、今はもうすっかり友好関係になっています。そして私は、これから「日本語」という武器を持って、さまざまなことに挑戦していきたいと思います。もちろん友達と日本語を教えてくれた先生方とともに。

(お国自慢とポットラックパーティーでの「にほんご寺子屋」の子どもたちのスピーチより)



## 日本語が上達すると幸せ

王 紅霞

私は今年度、徳島県労働者福祉協議会の「就職のための日本語講座」と「介護の日本語講座」を受講し、「ホームヘルパー2級養成講座」で資格を取得しました。そして実習先の病院に就職することができ、3月1日から働き始めたばかりです。先生方や皆さまのサポートのおかげで、就職することができました。本当にありがとうございました。

日本に来た当初、私はいろいろな不安や心配がありました。言葉は分からないし、生活習慣も違うし、家にばかりいましたから、すごくストレスがたまりました。

仕事を探すためにハローワークに行ったとき、職員の方が「外国人の就職を支援する日本語講座がある」と労福協を紹介してくれました。「日本語が上手になって仕事もできる」と思った私は、「ぜひその講座を教えてほしい」とお願いし、連絡をとってもらいました。

最初は不安でしたが、先生方はやさしくて、楽しく日本語を勉強することができました。(中略)

講座が進むにつれてレベルが高くなり難しいと感じることもありましたが、このような講座を受けないと、ホームヘルパーの資格を取得するのはもっと難しく感じたことと思います。

この1年間で3つの講座を受けて、友だちもたくさんできて、日本語も上手になりました。毎日楽しく過ごせて、ストレスもだんだんなくなって、すごく幸せに感じられるようになりました。仕事や日本で暮らすための日常の日本語がもっと上手になるように、これからも研修や講座を受け、勉強を続けていきたいと思っています。

(徳島県労働者福祉協議会 35周年記念事業「わーくウェル感謝と交流の集い」での表彰者代表挨拶より)



## 中国内蒙古自治区庫倫旗第一中学訪問の旅に参加して

2010年11月16日から20日までの5日間、JTMとくしまの事務局を置く社団法人徳島県労働者福祉協議会の久積育郎会長を団長とする中国遼寧省人民政府外事弁公室および内蒙古自治区庫倫旗、瀋陽、クレーリンキ 哈爾濱ハルビン訪問の旅に11名の団員とともに参加しました。

今回の訪問の第一の目的は、中国残留孤児で国府町出身の烏雲先生（日本名：立花珠美さん 庫倫旗第一中学名誉校長）を訪ね、第一中学で日本語を学ぶ子どもたちに奨学金を贈るとともに、今後の教育支援について具体的な話し合いを進めることにありました。

旅の2日目に訪問した庫倫旗第一中学では、初めに奨学金の贈呈式が行われ、久積会長から烏雲先生に奨学金が手渡されました。



その後、烏雲先生や第一中学の先生方、交流団のメンバーが見守るなか、60人の子どもたちに日本語の授業を行いました。授業では、車や電話、家、鉄道、お菓子など、日本の今と昔を紹介し、「わたしは□□がほしいです」「○○さんは何がほしいですか」の応答練習をしました。そのあと、まだ見たこともしたこともないという「シャボン玉」を歌とともに紹介し、いっしょに飛ばして交流しました。子どもたちが笑顔で、大きい声で日本語を話してくれて心から嬉しく思いました。

ひとつの役割を果たせたという達成感の一方で、「真の交流とは？」ということも考えさせられました。

庫倫旗第一中学の日本語教室は1999年9月2日に開設され、当初はJTMや徳島大学、連合徳島から随時日本語教師が派遣され、庫倫旗からも徳島県海外技術研修員として同時期に5年にわたって第一中学から毎年教師が派遣されてきました。その後、研修員制度が廃止され奨学金も途絶えた時期には、日本語教室も中断し、日本語教育の研修をした先生方も活躍の場を失い、図書室や理科実験室で働いていました。今は10クラスのうち、1クラスだけが日本語を学ぶクラスで、そのほかは英語のクラスだそうです。

教育支援が始まった当初は皆が力を入れていても、遠く離れた地であるがゆえに、ときが経つとともに交流が少なくなることも否定できません。しかし、こと教育支援は一朝一夕に成果が上がるものではなく、少なくとも10年のスパンを見据え支援と交流を続けて人が育つものではないでしょうか。



人が育てば、支援が必要でなくなるときがいずれ訪れます。その機が熟するのを見届ける責任が、支援を始めた人にはあるのだと思います。そして、人と人との交流を絶やさないでいることも同じように大切なことなのだと思います。

尖閣諸島問題などで両国の関係が悪化するなか中国を訪れ、人と人との交流こそが国同士の関係を乗り越えられるという確信を強くし、JTMの活動の意義をいっそう強く見出すことができました。そのことがこの旅の大きな成果のひとつであったと感じています。

今後の教育支援についての話し合いのなかで、日本語を学ぶ第一中学の子どもたちを日本に招くことが提案されました。初めて訪れる日本をその目で見て体験し、将来の夢を膨らませる子どもたちの姿が目には浮かびます。子どもたちが日本語を学んでよかったと思えるような未来が待っていること、そして、これからも人と人との交流が絶えないことを願い、日本語支援活動をとおして私たちにできることに努めていきたいと思っています。

(兼松 文子)



2010年度

JTMの活動の一年



日本語サロン  
毎週月曜日 10:30 ~ 12:00  
徳島県国際交流プラザ (TOPIA)



夏休み子ども日本語教室  
7月21日~30日 10:30 ~ 12:00  
徳島県国際交流プラザ (TOPIA)



日本語指導勉強会  
毎月第2土曜日 13:30 ~ 15:30  
徳島県国際交流プラザ (TOPIA)



就職のための日本語講座  
5月17日~7月9日  
ヒューマン・わーくびあ徳島



教師グループ研修会  
毎月第3金曜日(土曜日) 10:00 ~ 12:00  
とくしま県民活動プラザ



介護の日本語講座  
9月2日~11月2日  
ヒューマン・わーくびあ徳島



外国にルーツを持つ子どもたちの「にほんご寺子屋」  
毎月第4日曜日 13:30 ~ 15:00  
徳島県国際交流プラザ (TOPIA)



労協 35周年記念「わーくウェル感謝と交流の集い」団体表彰受賞  
3月5日  
徳島東急イン

- 外国人技能実習生日本語指導
- A L Tのための日本語講座
- プライベートレッスン数人指導中

# INFORMATION

## 活動紹介

### ブラッシュアップのために

- ◇日本語指導勉強会 毎月第2土曜日  
〈模擬授業と意見交換〉  
日本語に関心のある方ならどなたでも参加できます。
- ◇教師グループ研修会  
毎月第3金曜日または土曜日
- ◇定例会
- ◇特別研修会

### 日本語学習をサポートする交流活動

- ◇日本語サロン  
毎週月曜日10:30~12:00  
徳島県国際交流プラザ

### 親子にほんご寺子屋

- 毎週日曜日13:30~15:00  
徳島県国際交流プラザおよびとくぎんトモニプラザ

### 就職のための日本語講座

5月17日(火)~7月11日(月)

### 介護の日本語講座

9月5日(月)~11月2日(水)

ヒューマンわーくびあ徳島

主催 (社)徳島県労働者福祉協議会

### アパレル日本語集合研修 10月予定

外国にルーツを持つ子どもたちの日本語指導者養成セミナー 7~8月予定

## 日本語レッスン

- ◇プライベートレッスン・グループレッスン  
初級会話から日本語能力試験対策レッスンなどニーズにあった学習プランで指導します。
- ◇外国人技能実習生の日本語集合研修
- ◇詳しくは事務局またはレッスン専用メール  
jtmtokeu-lesson@mbk.nifty.com まで。

◆会員数(2010年度) 正会員50名 協力会員6名 協力団体2

◆入会随時受付中!

正会員…会の活動に参加し、ともに運営を行います。  
協力会員・団体…会の活動を支援する個人または団体

## JTMとくしまのオリジナル教材紹介

Konnichiwa Tokushima

# こんにちは とくしま

徳島で日本語を学ぶ人のために

本書は初級学習者向けの教材です。

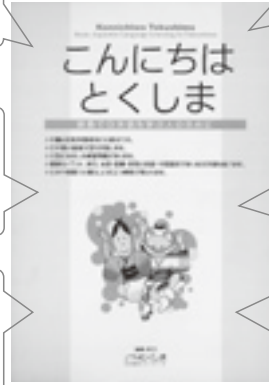
日本語の基礎文型を学習します。

文型に対応した練習問題があります。

イラストがたくさんあり、わかりやすいです。

日本や徳島の暮らしに役立つ情報が得られます。

会話と語彙、表現の英語・中国語訳があり、自主学習を助けます。



ご購入、お問い合わせは…

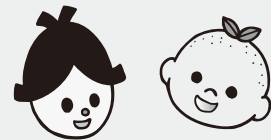
JTMとくしま事務局 または

✿ 紀伊国屋(そごう徳島店 8F)

✿ 宮脇書店(クレメントプラザ 4F)

## 助成金をいただきました

(財)徳島銀行生涯学習振興財団および(財)徳島新聞社会文化事業団より助成金をいただきました。活動に対してご理解とご支援をいただいたことに感謝し、誰もが社会とのつながりを感じられるようなチャレンジができる地域づくりに取り組んでいきたいと思っております。



## あとがき

東日本大震災が起き、日本中が今、大変なときです。こんなときこそ、自分にできることを一つひとつやっていこうと思います。

「あわゆずぶれす」23号ができました。どうぞお読みになって、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

(玉置 房)

発行 行/JTMとくしま日本語ネットワーク

発行責任者/兼松 文子

編集責任者/山溝十糸子

編集スタッフ/加村 匡子・村松 幸子・辻 暁子・安山 政子・  
長町 順子・玉置 房・森 清

印刷/徳島県教育印刷(株)

■JTMとくしま日本語ネットワーク

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1

わーくびあ徳島2階 (社)徳島県労働者福祉協議会内

TEL 088-625-8387 FAX 625-5113

E-mail jtmtokeu@nifty.com

URL http://homepage2.nifty.com/jtmtokeu/